学ぶ喜びを体感し、励まし合い助け合って一人一人が輝く学校

たいさんぼく

令和元年度 学校だより２月号
小平市立小平第十三小学校
http://www.kodaira.ed.jp/13kodaira/

「ありがとう」６年生

主幹養護教諭　佐野裕子

今年度も残り少なくなり、「卒業まであと〇〇」「卒業に向けて〇〇」という言葉が、多く使われるようになってきました。６年前の４月、71 名３クラスで小学校生活がスタートしました。入学からの６年間、保健室から学校生活を応援してきました。優しい気持ちのあふれている６年生です。

ある日、テレビコマーシャルを見ていて胸が熱くなりました。それは、ある企業のもので、就職が決まり立派になった息子に母親が「〇〇なら、きっと乗り越えられるよ。」という場面から始まります。小学生のころ泥だらけになって帰ってきたり、中学生のころぬれて帰ってきたりする息子に、その場面だけを見て、叱ってばかりで何もわかっていなかったとつぶやく母親。泥だらけになったのにもぬれたのにも理由があり、彼は、出会った人からたくさんの「ありがとう」という言葉をかけられていました。そのテレビコマーシャルを見ながら、十三小の子どもたちが、「行ってきます」から「ただいま」の間の学校生活で、頑張っていること成長したことを、保護者の方々に伝えたいと感じました。

４月、入学式の手伝いをする６年生、たてわり班活動で１年生のお世話をする６年生は優しさにあふれています。目線を合わせ、１年生にペースをあわせ、寄り添う姿を見ると心が温かくなります。

５月、忙しさの中で準備を続け、大成功で終わった移動教室。

９月、運動会に向けて、演技や競技だけではなく係活動など、リーダーとして大活躍でした。「組体操」では、昨年は練習が終わると、足や背中や腰の痛みを訴える児童が多く、練習後の保健室は５年生でいっぱいでしたが、今年は上級生として５年生のお手本となりました。移動教室や運動会のような大きな行事は、心も体も大きく成長させるのだということを実感することができました。

１１月、展覧会の作品作り・キッズガイドの準備をしながら、連合音楽会の練習が本格的に始まりました。休み時間や放課後など時間を見つけて練習に励んでいました。私は、笑顔で一生懸命に説明をしてくれる６年生の姿にとても感動しましたが、保護者の皆様はいかがだったでしょうか。「連合音楽会発表集会」では、美しい音色に心が震えました。

休み時間、低学年がけがをしたり泣いたりしていると、保健室に付き添ってくれます。「担任の先生に伝えて」「教室に連れて行って」という言葉に「わかりました」と快く笑顔で返事をしてくれます。教室に用事があって入り口の前に立つと、「佐野先生が来ました」と担任に大きな声で伝えてくれます。保健指導や保健学習で使用した教材を「運びます」と言って手伝ってくれます。あらゆる場面の一つ一つの出来事にたくさんの優しさを感じることができます。

約２か月後には卒業の日を迎えます。
皆、一人一人が素敵なところをもっている６年生。６年間で、私は、君たちからたくさんの優しさや感動をもらいました。「ありがとう」の気持ちをこめて、「君たちなら、きっと乗り越えられるよ。」と、６年間で一回りも二回りも心と体が成長した６年生を中学校に送り出したいと思っています。